3. 印欧語族からゲルマン語派へ

要点

1. 比較言語学とは何か？
2. ゲルマン語派に共通する 6 特徴とは何か？
3. グリムの法則とは？

(　　)（印欧）語族

1. 紀元前 (　　) 年ごろ？
2. (　　) のステップ地帯に (　　) 文化 (#637)
3. 現代世界における最大の語族 (#398)
4. 印欧語族の系統図 (#50)

比較言語学の始まり #282

The Sanskrit language, whatever be its antiquity, is of a wonderful structure; more perfect than the Greek, more copious than the Latin, and more exquisitely refined than either, yet bearing to both of them a stronger affinity, both in the roots of verbs and the forms of grammar,

than could possibly have been produced by accident; so strong indeed, that no philologer could examine them all three, without believing them to have sprung from some common source, which, perhaps, no longer exists. (Jones' Third Anniversary Discourse, 1786.)

比較言語学の興隆

1. 1786 年，Sir（　　）が（　　）と Latin，Greek の類似を体系的に指摘
2. 比較言語学の理論的な再建（　　）の手法が確立
3. 19 世紀をかけて「(　　)」の原則が固まる

再建の一例

1. Skt. *pad-*
2. Gk. *póda*
3. Hittite *pata*
4. Lat. *pedīs*
5. Fr. *pied*
6. Got. *fōtus*
7. OE ( )
8. Ger. ( )
9. Lithuanian *péda* "foot-track"
10. Armenian *ot-n* "footprint"
11. IE ( )

(　　) 語の 6 特徴 #182

1. 形容詞の (　) 変化と (　) 変化
2. 動詞の (　) 変化と (　) 変化
3. 時制は (　　) と (　　) のみ
4. 過去・過去分詞に (　　)

*5. 第一音節に (　　)

*6. First Germanic Consonant Shift

- (　　) Law #102, #103, tag [grimms_law]
- (　　) Law #104
- cf. (　　)

グリムの法則

1. (　　) 兄弟の兄（言語学者）による
2. (　　) 語派でのみ起こった
3. (　　) 子音変化
4. BC 1000 – BC 400
5. cf. #103, tag [grimms_law]

子音の素性

1. 調音点: place of (　　)
2. 調音様式: manner of (　　)
3. 有声／無声: (　　)
4. （印欧語で）帯気／無気: (　　)
5. 現代英語の子音体系 #31

(　　) 語の子音

aspiration voicing manner	帯気 有声 破裂	無気 有声 破裂	無気 無声 破裂	(無気) (無声) (摩擦)
唇音	bh	b	p	(f)
歯茎音	dh	d	t	(θ)
軟口蓋音	gh	g	k	(h)

(　　) 語の子音

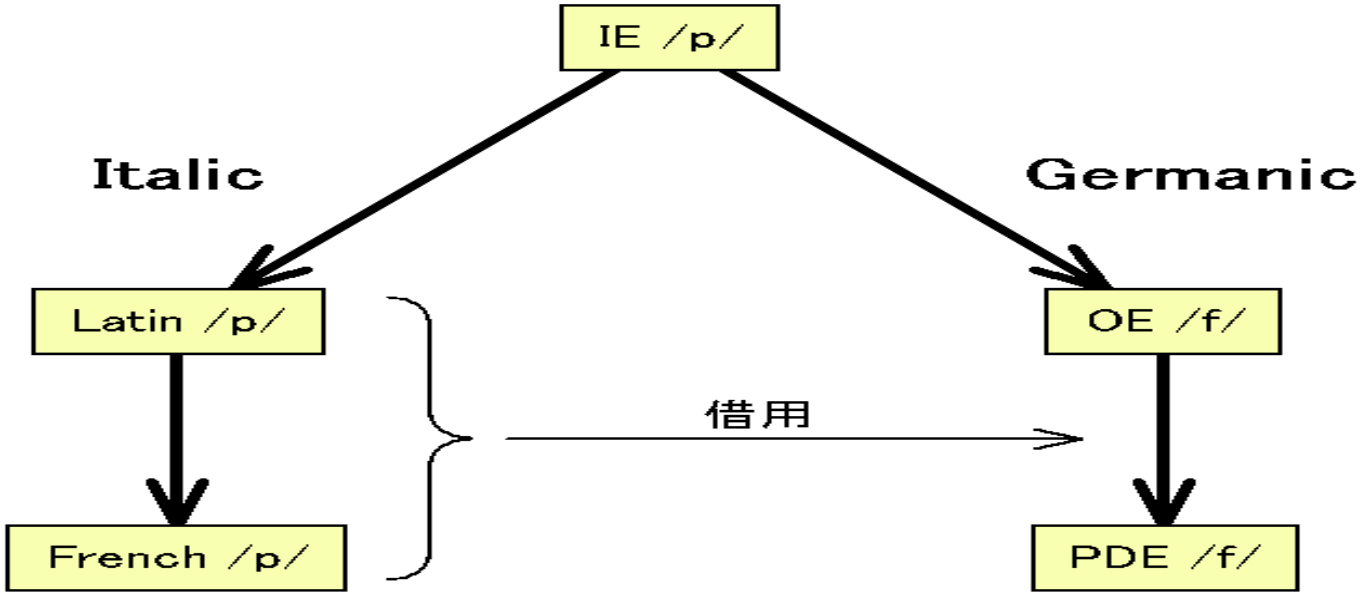
aspiration voicing manner	(帯気) (有声) (破裂)	無気 有声 破裂	無気 無声 破裂	無気 無声 摩擦
唇音	(bh)	b	p	f
歯茎音	(dh)	d	t	θ
軟口蓋音	(gh)	g	k	h

グリムの法則の英語史上の意義

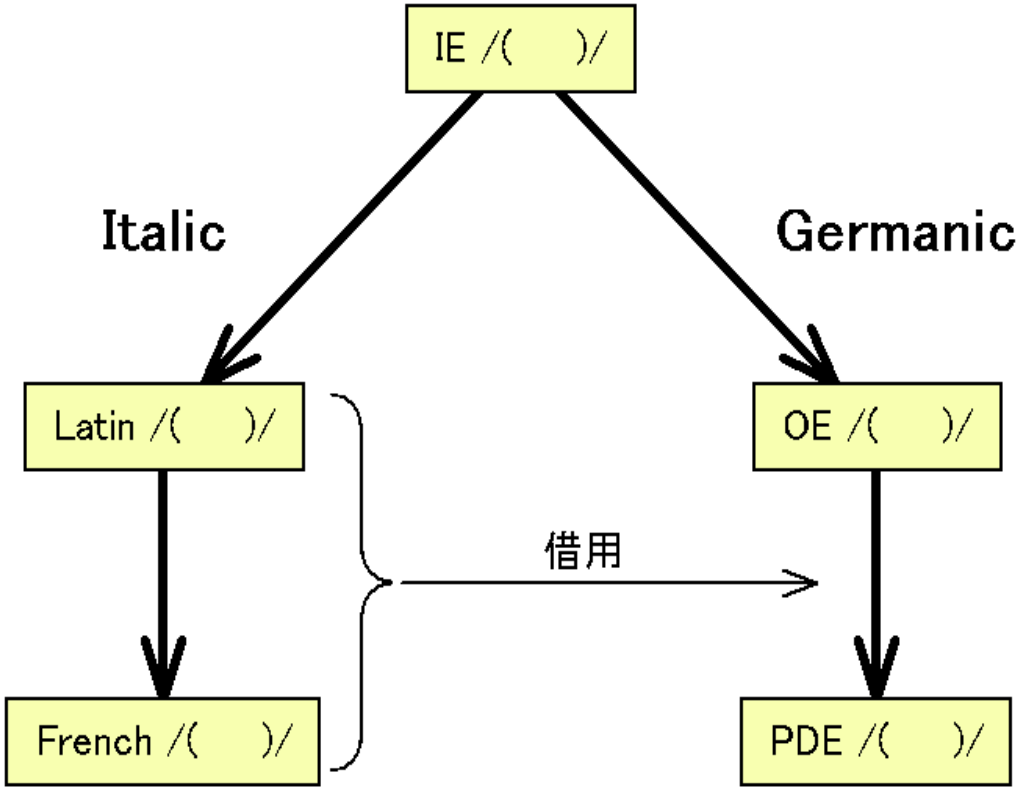
（古）英語は（　　）語派に属するので，（　　）の示す（　　）子音変化を経た．一方，（　　）語族の他の語派，例えば（　　）語派の（　　）語や（　　）語は，この子音変化を経ていない．ところが，英語は主に（　　）期以降，この二言語からの多くの語を（　　）してきたという事情がある．

さて，英語もこれらの言語も究極の祖先は共通であるから，同（　　）の単語が，英語の中に二つの異なった形態で存在する可能性がある．一つは，子音変化を経た（　　）の形態であり，他方は子音変化を経ていない（　　）の形態である．

(　　)語と(　　)語の並存



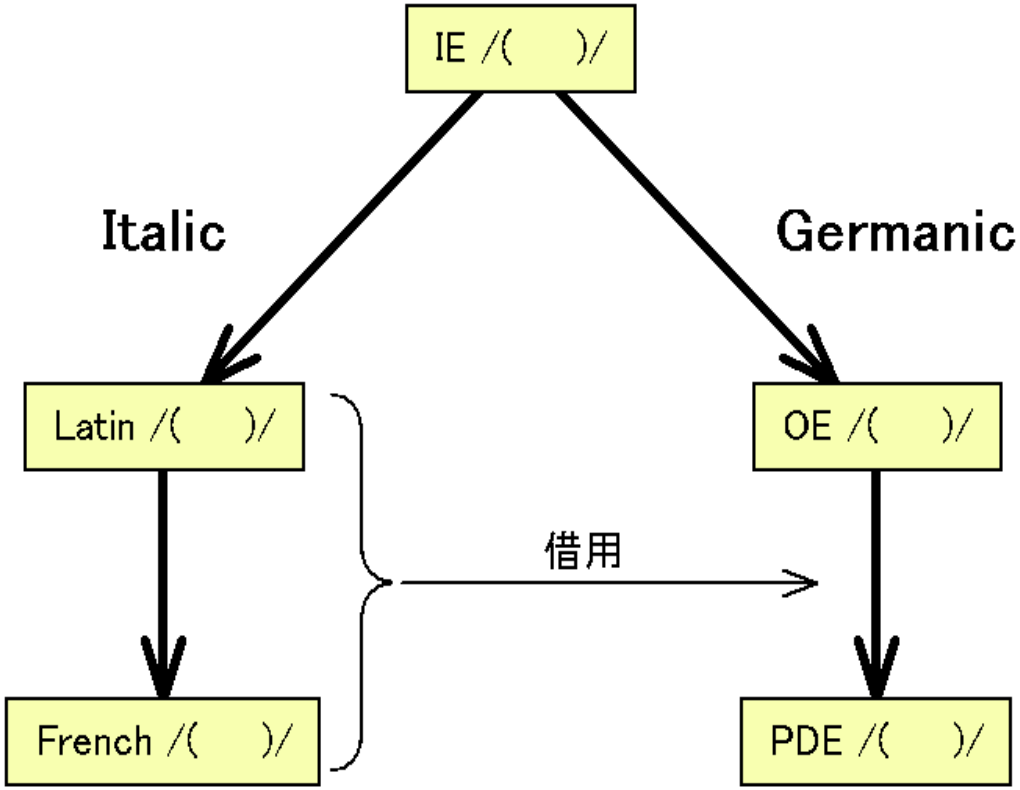
/p/をもつ同語源の語が，
違う経路により/f/と/p/に
分かれ，後に英語で合流した．
ex. father / paternal



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「父系の」，(　　)「愛国者」– father

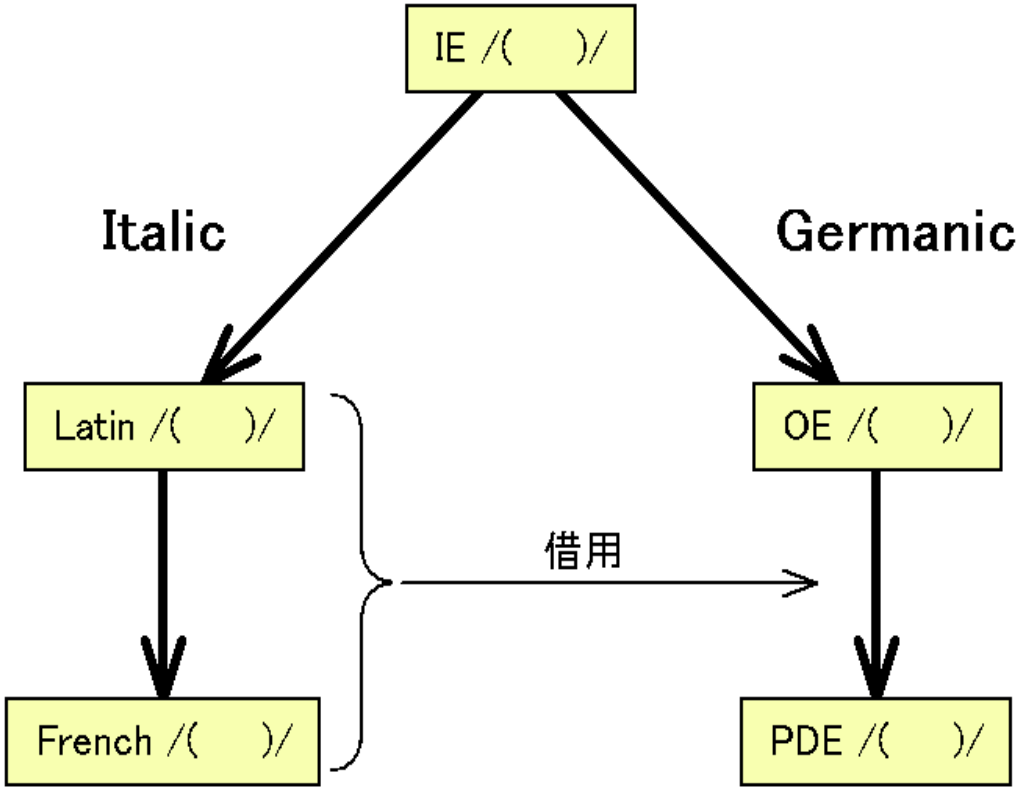
(　　)「足の」，(　　)「歩行者」– foot



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「三重奏」, (　　)「第三段階の」 – three

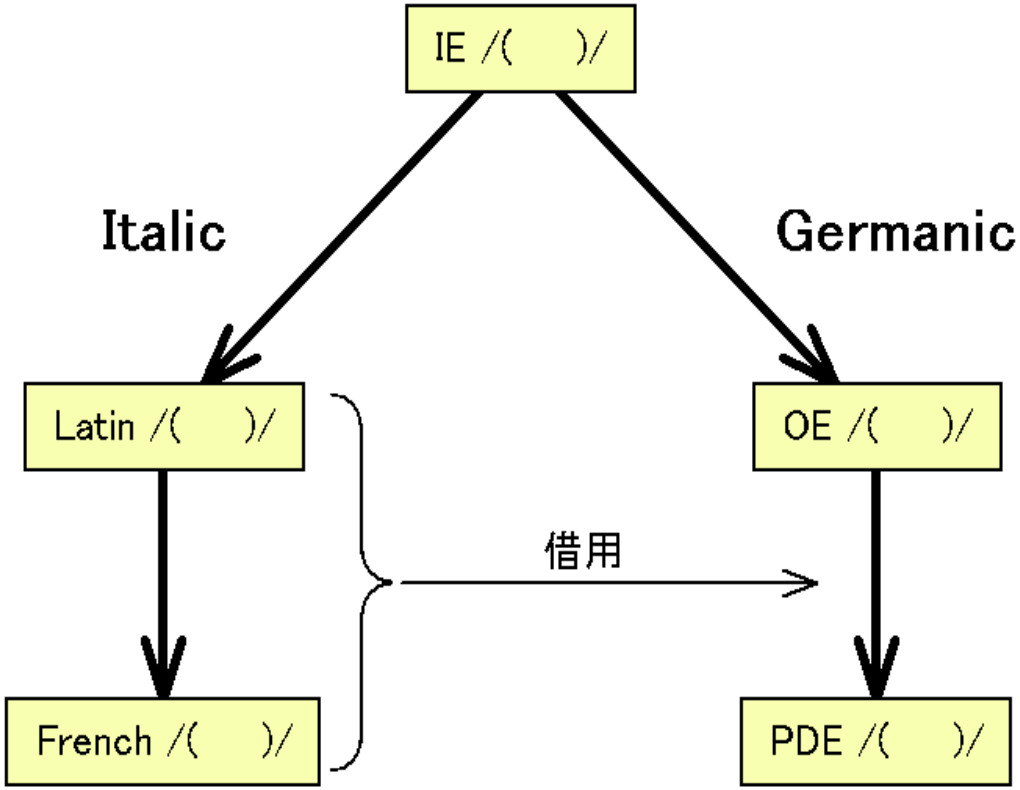
(　　)「緊張」, (　　)「腱」 – thin



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「世紀」，(　　)「セント」 – hundred

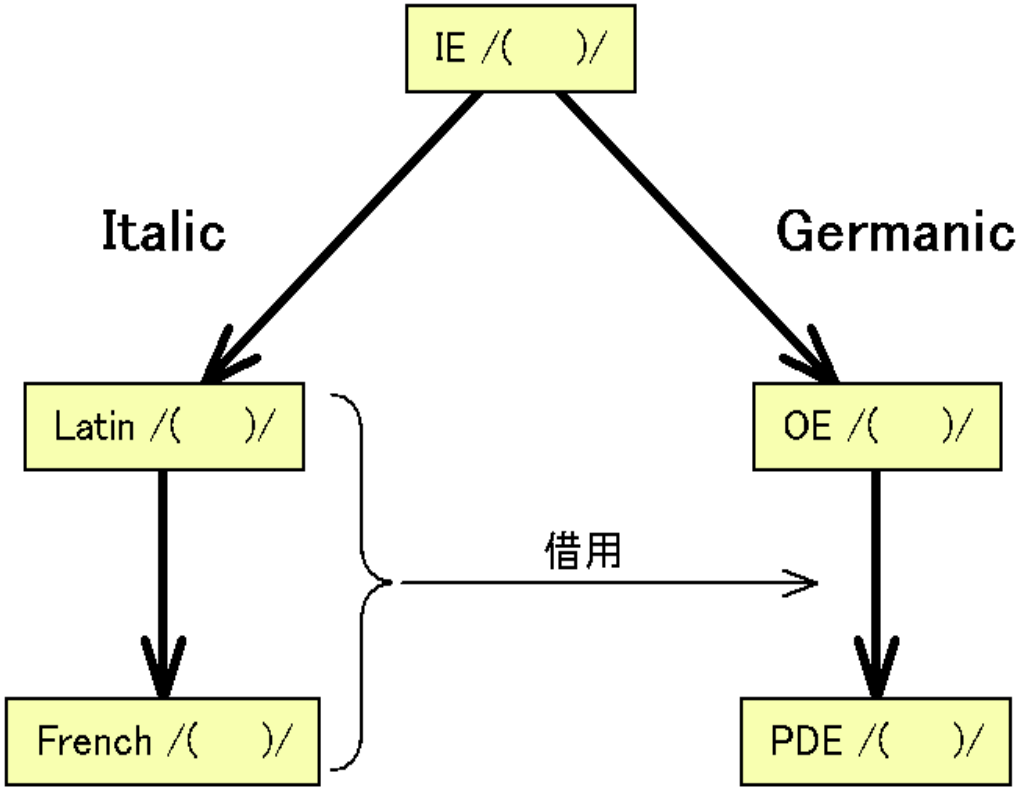
(　　)「質問」 – what



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「会計課」 – purse

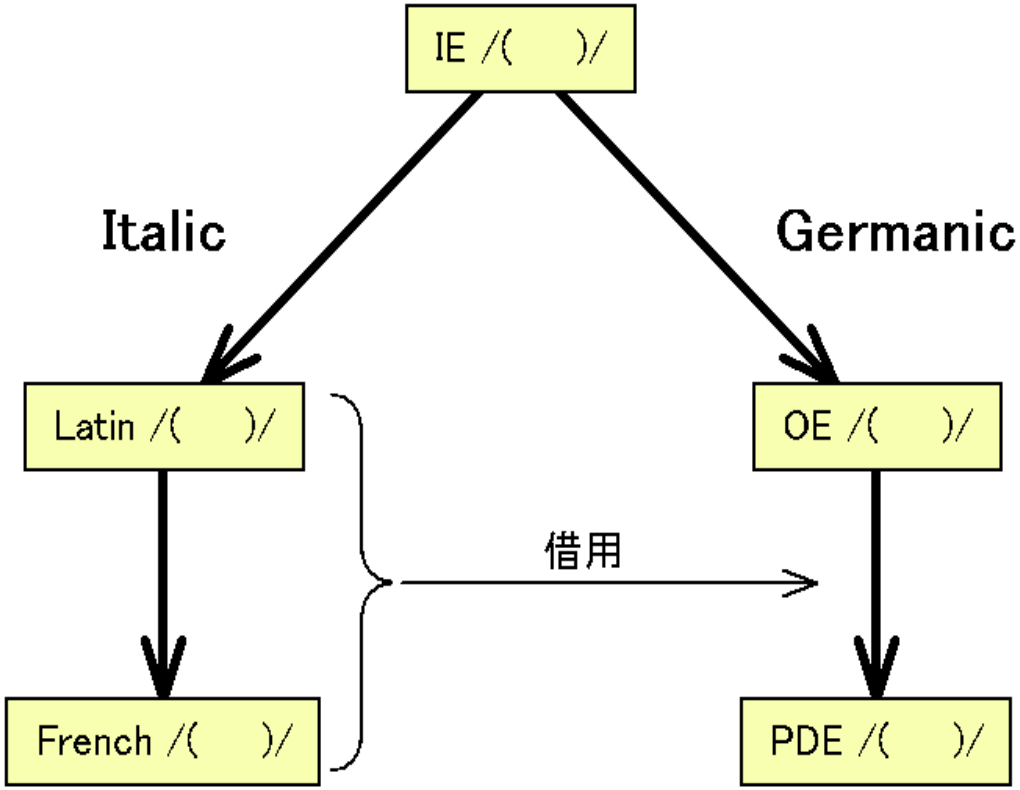
(　　)「大麻」 – hemp



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「決闘」，(　　)「二重奏」 – two

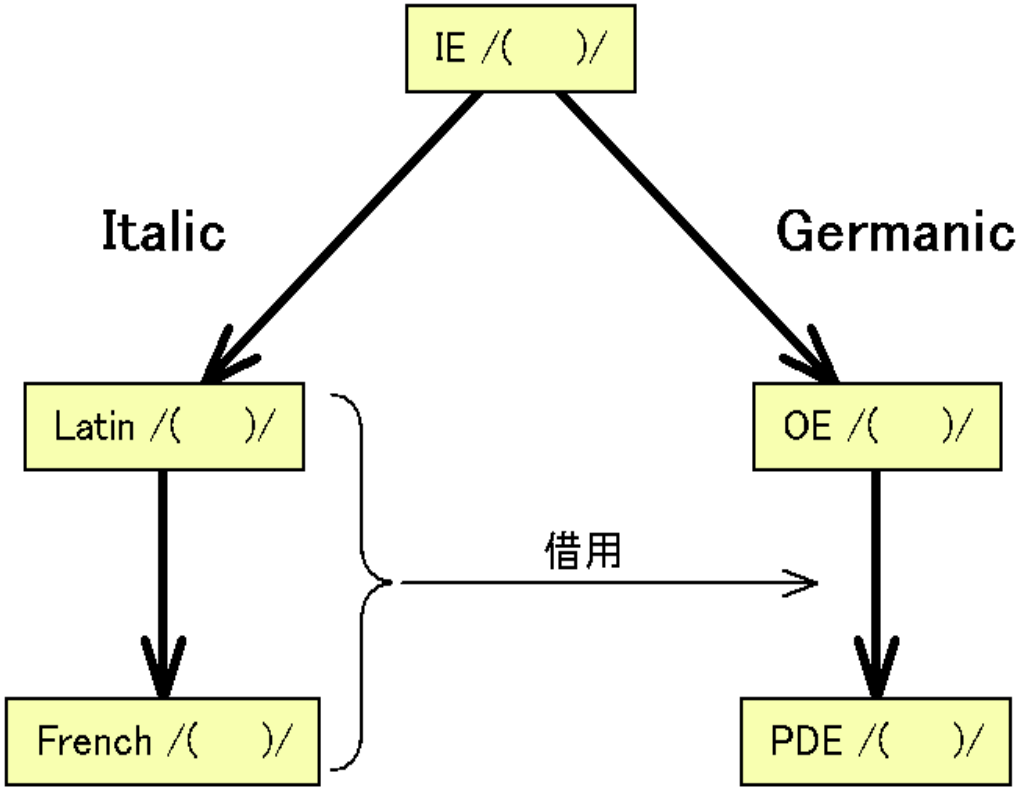
(　　)「10 年間」，(　　)「12 月」 – ten



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「農業」 – acre

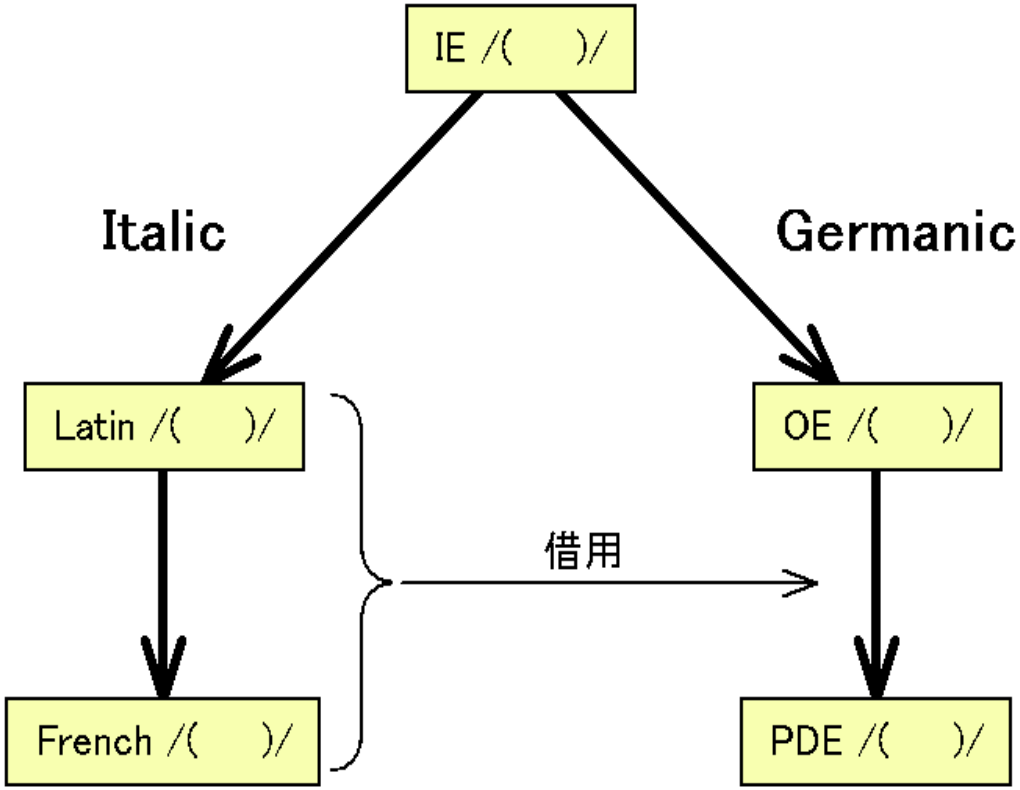
(　　)「婦人科」 – queen



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「友愛の」 – brother

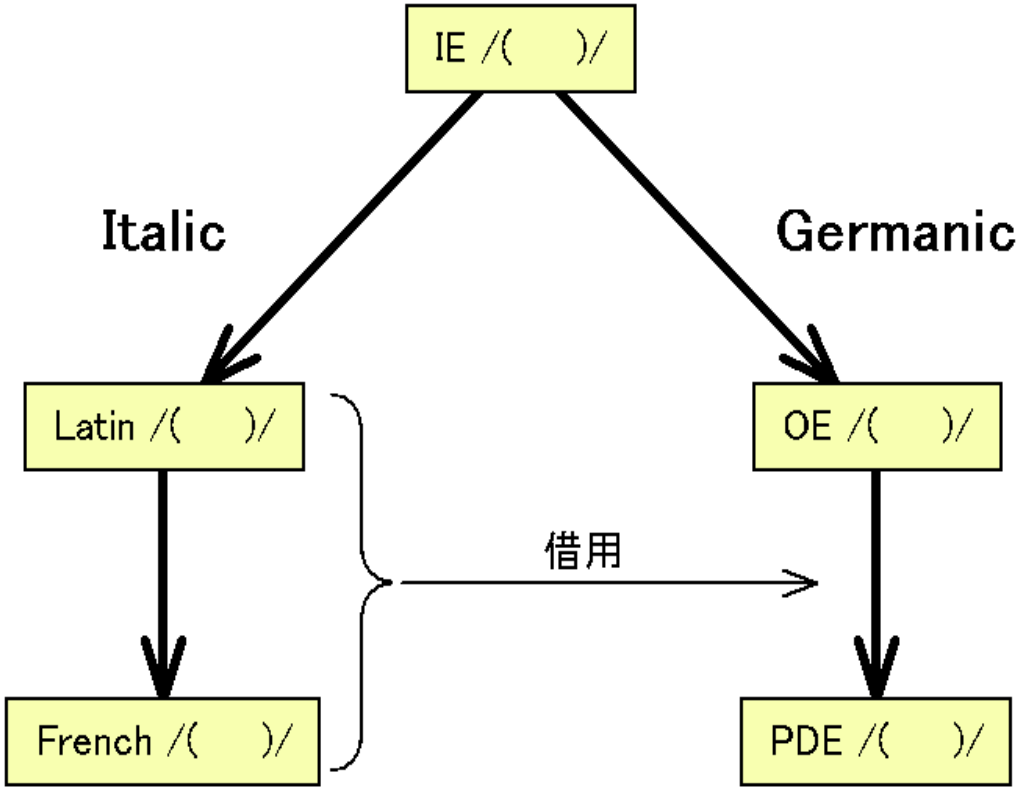
(　　)「多産な」 – bear



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「下級の」 – under

(　　)「事実」 – do



/(　)/をもつ同語源の語が，
違う経路により/(　)/と/(　)/に
分かれ，後に英語で合流した．

(　　)「主人」 – guest

(　　)「園芸」 – garden

その他の例

1. pecuniary – fee
2. port – ford
3. intone – thunder
4. Trinity – three
5. canine – hound
6. cordial – hearty
7. labial – lip
8. lubricate – slippery
9. gelid – cold
10. gender – kind
11. ferry – bear
12. fragile – break
13. facile – do

まとめ

1. 比較言語学の「再建」による印欧語族の解明
2. ゲルマン語派に共通する 6 特徴
3. 英語史におけるグリムの法則の意義